

鹿児島県屋久島沖における米軍オスプレイの事故について

概 要

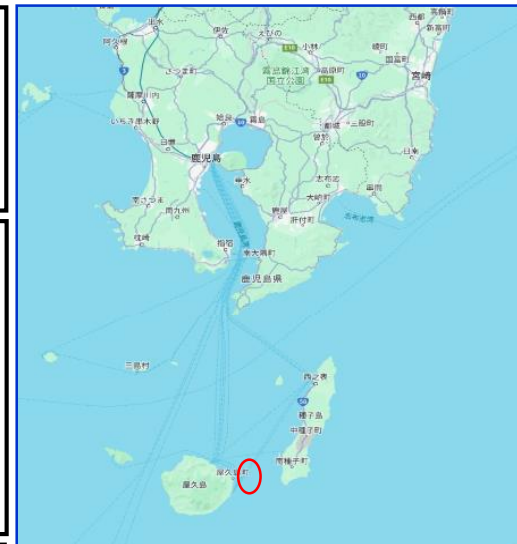
- 令和5年11月29日1440頃
- 鹿児島県屋久島東側の沖合にて、訓練中の米空軍横田基地所属のCV-22オスプレイ 1 機が墜落
- 12月5日、米軍は乗員8名全員について死亡を認定
- 飛行経路は岩国基地～嘉手納基地

現地における自衛隊及び海上保安庁の対応

- 11月29日 1447頃、海上保安庁第十管区海上保安本部が巡視船・航空機を発動
- 11月29日 1458以降、陸海空自衛隊の航空機等が搜索救難活動を開始
- 11月29日 1600頃、十管区所属の回転翼機が現場海域に到着し、機体の残骸等を確認
- 11月30日 松本防衛大臣政務官が屋久島町長、屋久島漁業組合長、鹿児島県知事を往訪し、お詫び及び事故の説明を実施
- ※その他、現地調整所において必要な調整を実施
- ※12月5日、米軍は搜索救助活動を終了することを決定（搜索回収へ移行）

日米の主なやりとり

- 11月30日 大和防衛省地方協力局長⇒ラップ在日米軍司令官
- 11月30日 上川外務大臣⇒エマニュエル駐日米国大使
- 11月30日 木原防衛大臣⇒ラップ在日米軍司令官へ要請
国内に配備されたオスプレイについて、搜索救助活動を除き、飛行にかかる安全が確認されてから、飛行を行うよう要請するとともに早期の情報提供を求めた
- 12月 5日 バイデン大統領及びオースティン国防長官から、乗員の死亡を悼むとともに、我が国の海上保安庁、自衛隊、地元の方々による搜索救助活動への支援に謝意を表するメッセージを発出
(米国東部時間)
(日本時間 6 日)
- 12月 6日 岸田総理⇒バイデン大統領
上川外務大臣⇒ブリンケン国务長官及びエマニュエル駐日大使
木原防衛大臣⇒オースティン国防長官
秋葉国家安全保障局長⇒エマニュエル駐日大使 それぞれ弔意を表す書簡を発出
- 米側からの説明
12月 1日・CV-22の飛行を行っていない
・日本に配備されている全てのオスプレイは、徹底的かつ慎重な整備と安全点検を行った上で運用
・事故に関する可能な限り詳細な情報を透明性をもって共有
12月 4日・全てのオスプレイの部隊は、CV-22の事故をしっかりと踏まえた上で、安全点検及び予防的な整備を継続的に行っている
※陸自オスプレイは、事故の状況が明らかになるまでの当面の間、飛行を見合わせることにしている



CV-22オスプレイ



(出典：米国防総省HP)

全	幅	25.8 m
全	長	17.4 m
全	高	6.73 m
最大離陸重量		約24,000 kg
最大巡航速度		約446 km/h
乗務員＋搭乗者数		4 名＋24 名

(出典：米空軍ファクトシート)

(お知らせ)

※ 数値等は全て速報値のため、
今後変更される可能性があります。

鹿児島県屋久島沖における米軍オスプレイの搜索活動について

令和5年12月5日
防衛省

概要	○ 令和5年11月29日（水）1440頃、鹿児島県屋久島沖の洋上において、在日米軍所属のオスプレイが墜落した旨の通報あり。 ○ オスプレイの乗組員が行方不明となっていることから、29日（水）1458以降、自衛隊の航空機、艦艇、地上部隊が活動中。
活動部隊	○ 陸上自衛隊第8師団司令部（北熊本）、第42即応機動連隊（北熊本）、第12普通科連隊（国分）、西部方面航空隊（高遊原） ○ 海上自衛隊第1航空群（鹿屋）、第212教育航空隊（鹿屋）、第22航空群（大村）、第8護衛隊（佐世保）、第12護衛隊（呉）、第13護衛隊（佐世保）、第1掃海隊（横須賀）、第2掃海隊（佐世保）、第3掃海隊（呉）、第43掃海隊（下関）、佐世保警備隊（佐世保） ○ 航空自衛隊西部航空方面隊（春日）、新田原救難隊（新田原）、第603飛行隊（那覇）
連絡調整所	【現地連絡調整所（旧屋久島町役場）】 内部部局（地方協力局）、統合幕僚監部、九州・沖縄防衛局及び各部隊の連絡員による関係機関との調整等を実施
活動実績	【自衛隊】 ○ これまでに、海自艦艇により機体の一部らしきもの及び救命いかだ等を揚収 ○ 5日（火）1600時点の活動実績 <固定翼> U-125A×1機 <艦艇4隻> ・ 護衛艦 「きりさめ」 ・ 掃海母艦「うらが」 ・ 掃海艦 「ひらど」 ・ 掃海艇 「とよしま」 <地上部隊> 人員約110名 【海上保安庁】 ○ 5日（火）1600時点の活動実績 ・ 巡視船艇×3隻、航空機×1機

